

動的震源モデルに基づく強震動評価：現状と課題

Ground motion evaluation using dynamic source models

関口 春子 [1]

Haruko Sekiguchi[1]

[1] 産総研 活断層研究センター

[1] Active Fault Research Center, GSJ/AIST

地震動予測に動力学を考慮する動きが進んでいる。運動学的な震源モデルにも、断層物理に基づくすべり時間関数の近似式が広く使われている。より動力的なモデル化の方法として、ずれ破壊の動力的シミュレーションを完全に行う動的震源モデリングと、動的な破壊のエッセンスを取り込んで計算は運動学的に行う擬似動的震源モデリングがある。また、動的・擬似動的に震源モデルを作り出すに必要な動力的パラメータの設定の仕方については、過去の地震の解析から得られた動力的パラメータから統計的性質を抽出しこれをもとに妥当な動的パラメータ分布を発生させる考え方や、活断層情報から各断層固有の動的パラメータ分布を推定する考え方などが提案されている。

これらの方法の現状と課題について、動力的パラメータを推定する考え方やその根拠の妥当性、地震動予測という側面からの要求の達成度などの観点から議論する。